

大学生を対象としたジェンダーに対する意識の実態

日景弥生

(弘前大)

目的 近年、ジェンダー(社会的・文化的につくられた性)という言葉をよく耳にするようになり、学校現場でも、ジェンダーフリーあるいはジェンダーセンシティブな教育を行うことが望ましいと言われている。そこで、教師予備軍である教員養成系学部学生を対象に、ジェンダーに関する調査・分析を行った。

方法 教員養成系学生117名を対象に、修正版ジェンダーチェック(東京女性財団作成のジェンダーチェックを「みえウイメンズ・プラン」が修正したもの)30項目について「はい」または「いいえ」のどちらかに回答させ、ジェンダーに対する意識を調査した。さらに、小学校国語教科書中の物語(教育出版3年「火と鬼」)の感想を書かせ、ジェンダーチェックの結果と比較・分析した。

結果 1. **ジェンダーチェック**; 全体的にはジェンダーセンシティブとなったが、項目により差がみられた。ジェンダーチェックをカテゴリーに分類しその意識をみると、「性別による固定観念」ではジェンダーを意識している者が多いが、「慣習による男女の区別・差別」ではあまり意識していないことがわかった。2. **物語の感想にみるジェンダー**; ジェンダーを感じた者は99名、感じなかった者は18名だった。「感じた」と回答した者の感想を5つのカテゴリーに分類した結果、「社会における女性のあつかい」や「女性や男性のイメージ」をジェンダーと感じた者が多かった。3. **1と2の比較**; 1と2の近似するカテゴリー間で比較したところ、両者は必ずしも同じ傾向にならなかった。これよりジェンダーセンシティブは同一カテゴリーの中でも、項目によりその程度が異なることがわかった。